

「応援する」について

- スポーツ実施率を上げるためには、ハードルを下げるのが重要。「応援する」こともスポーツに携わる方法だということを、国やほかの道府県より先に発信していけるのは、素晴らしい。
- パラリンピックについて、「応援」という形で多くの人が注目し、より大きな盛り上がりにつながるので、「応援する」という要素はパラスポーツにとっても有意義である。
- 「応援する」が広まることで、今の若い世代が親世代になった時、子供がスポーツが苦手と感じていても、「応援する」という関わり方もあることを伝えることができる。
- 「する・みる・支える・応援する」というコンセプトは、様々な立場の人がスポーツへの参画を有益と感じ、共生できる社会の実現につながる。
- 老若男女や障害の有無に関わらず、あらゆる人がスポーツに関わるために、「応援する」は「する・みる・支える」の入り口・つなぎ役であり、重要なキーワードである。
- スポーツへの様々な参画方法を示すことで、多くの方の日常に一瞬でも幸福をもたらすことができるよう、この計画を推進されたい。

パラスポーツについて

- パラスポーツと障害者スポーツの視点から見て、東京都らしい質とボリュームになっており、他自治体からも注目され参考にされるのではないかな。
- 東京2020大会から継続してきたことがパラアスリートの活躍や障害者のスポーツ実施率につながっている。今後も手を緩めず計画を実施してほしい。

計画の推進に向けて

- コロナ後も体力やスポーツイベントに参加する人数は戻ってきていないため、コロナがもたらした影響をどのように解決するか、施策の推進にあたって大きな課題となる。
- 座位行動と死亡率の関係が記載されているが、座るだけでなく体を動かすことが重要だということを、計画を通して都民の方に知ってもらいたい。
- DXは日進月歩で進化しているので、世間の早い変化に遅れず、最大限スポーツで活用してほしい。
- 教員の働き方改革や部活動の地域移行などの課題があるが、今後も都内全ての学校で生徒の競技力を向上できる環境をつくってもらいたい。
- 教育庁の施策で本計画にも関係するものがあるように、本計画の策定によって、都の様々な施策とも絡めて推進していけるのではないかな。
- 企業が健康経営に取り組み、スポーツを通じて従業員の健康増進を行うことは、女性をはじめとした多忙な働き盛り世代がスポーツに親しむきっかけとなる。
- スポーツ実施率を上げるには、場所の提供が必要。民間の代替施設もあるが、各地域の財政状況も踏まえ、都が主体となり環境を整えることが重要。
- スポーツ推進委員について、今は認知度が低いですが、計画で記載されることによってPRとなり、次世代へつながることが期待できる。
- 自治体や企業・団体と連携し、都民の状況を着実に捉えることで、2030年、2035年の目標達成に向けて東京都がひとつとなり成しえて欲しい。